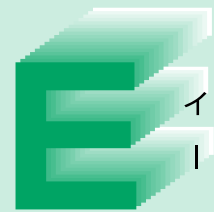
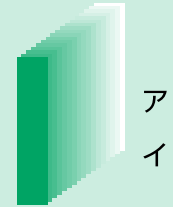


Newspaper in Education



教育に新聞を

実践報告書

2017年度



はじめに ～反芻と新聞～

静岡県NIE推進協議会
会長 安倍 徹

今年の2月から3月にかけて、韓国の平昌で開かれた冬季オリンピック・パラリンピックでは、4年に一度の大会ならではのたくさんの感動的なドラマが展開されました。この2つの大会の様子を伝えるメディアの報道に接し、新聞の役割として「反芻」ということを感じました。

今年1月発行の「しずおかNIEだより」で、新聞はテレビやインターネットなどのメディアと比べて、広く知ることや深く理解することでは信頼度が高い一方、速報性という点ではかなわないというアンケート結果を紹介しました。しかし、この新聞の、一呼吸遅れてくる情報（時には、「号外」という速報版も発行されますが）に、新聞としての意味があるよう思います。

中継や時を置かずにテレビやインターネットで流れてくる映像や音声は、同じ時間を共有しているという高揚感とも相まって、非常に迫力があり感動的です。しかしながら、一夜明け翌朝の新聞記事を読むと、前日の映像や音声が一味違った感慨をもって蘇ってきます。というのも、新聞が伝えてくれる文字としての新たな情報が前日の映像や音声に加わり、より深みを増して、言ってみれば冷静な感動が蘇ってくるからだと思います。

例えば、500メートルスピードスケートで金メダルを獲得した小平奈緒選手と3連覇を逃した銀メダルの韓国の李相花選手との友情物語を、翌朝の新聞が伝えていました。お互いを大切にするこれまでのおもてなしのエピソードや、記者会見での「リスペクトしている」というコメントを読むと、中継映像で見たレース直後の2人の行動がごく自然になされたものであり、李選手の涙が単なる悔しさだけからのものではなく複数の思いが交錯しての涙だったことが分かります。このように新聞が新たな解釈を提供してくれ、重層的・多角的な報道内容として反芻する機会を私たちに与えてくれるのです。一つ一つの事実を知ることにより、私たちは、実像に近づくことができるのです。

これは、スポーツ報道に限らないことだと思います。一呼吸遅れてくる情報、時間差で知る情報がかえって反芻を促し、より深く理解させてくれるのではないかと思います。新聞が伝える情報を契機に改めて噛みしめる意味が、そこにあるように思います。

本実践報告書には、今年度も様々なアプローチからのNIE実践が掲載されています。これまで述べた反芻することもたちの姿にも出会えるかもしれません。各学校におかれては、それぞれの実情を踏まえた教育活動を展開するに当たり、本実践報告書からヒントを得ていただければ幸いです。

目 次

◆新聞は、子どもと社会とを繋ぐ架け橋

～本校の4年間のNIEのあゆみ～

東海大学附属静岡翔洋小学校 松本 傑…………… 3

◆新聞に親しみ、活用しよう

森町立森小学校 兼子 万紀郎…………… 9

◆学校現場^{プラス}＋新聞

～社会の出来事をもっと身近に～

裾野市立富岡中学校 加藤 りよ……………13

◆NIEって何？

～まずは新聞を話題にすることから～

浜松市立可美中学校 村松 聡一郎……………18

新聞は、子どもと社会とを繋ぐ架け橋

～本校の4年間のNIEのあゆみ～

東海大学付属静岡翔洋小学校 松本 傑

1. はじめに

本校では、2015年度からのNIE実践指定校の認定を前に、その前年から、小学校の教育目標を達成するためにはどのように新聞を使った授業を組み入れていくのが良いのか、教職員全体で取り組み始めた。新聞のある環境づくり、新聞に触れることの日常化、新聞を用いた新たな授業の創造、低学年が新聞を理解する方策など、様々な視点からNIEにせまってみた。

まず、本校の「NIE目標」を作成した。

【1～3年生のNIE目標】

- ①家庭で新聞に触れ合う機会を設ける。
- ②記事を紹介し、内容に対して自分の感想を語ることができる。

【4～6年生のNIE目標】

- ①自分で新聞を読み、必要な記事を探すことができる。
- ②記事を紹介し、内容に対して自分の考察を述べるができる。

NIEのねらいである「世の中の活字離れを防ぐこと」と「世の中に関心をもたせること」の2点を具現化するために、我々に何ができるのか。以下は、本校の4年間に及ぶNIEのあゆみである。



2. 新聞の置き場所と整理の方法

【毎朝届く、新聞の扱い】

NIE実践指定校に認定されたことで毎朝、2社の新聞が無償で届けられることとなった。自宅から教師が新聞を持参してこなくても、新聞を学校で自由に使えるようになった。また、2社の新

聞を比較して読むことが可能となった。

新聞のある環境づくり（子ども達の学校生活において、新聞のある風景が当たり前だと感じさせる工夫）の開始である。廊下に「NIEコーナー」を設置し、その隣りには新聞をゆっくり読めるように長椅子を置いた（この長椅子は、PTA奉仕作業の際、保護者の皆さんが子ども達のためにと作ってくれた大切なものである）。

玄関前に届いた新聞をNIEコーナーへ並べること、昨日までの新聞を別室にまとめる作業は情報委員会の子供達による。教師の手を入れ過ぎないことも、身近なNIEだと考えている。

また、本校ではずいぶん前から朝日小学生新聞を購読している。こちらは下学年から上学年へ、読み終えたら隣の学級へ回すようにしている。一般紙を読みとるためには、中学一年生程度の国語力が必要だと言われている。その一般紙をNIEとして小学生に理解させるのには、多くの工夫を必要とした。小学生新聞を昔から手に取ってきた本校の子ども達だから、大きな抵抗もなく、一般紙を読む気になったのではないかと考える。これからも、小学生新聞と一般紙のそれぞれの良さを理解し、併用して扱っていきたい。



【本校の掲載記事の扱い】

私立の小学校として、また、本校の教員として自分達の学校の授業や行事が新聞に掲載されることは、正直嬉しい。信念を持ってやっていることが、世の中に認められたと感じられる瞬間でもある。掲載された記事は随時、職員室前に飾ってある模造紙「新聞記事でふりかえる本校の教育」に追加する形をとっている。休み時間になると、子ども達がこの模造紙を見て「あっ、私が新聞に載っ

てるよ。ママに教えなくちゃ」といった会話が聞こえてくる。これも、親子で新聞に触れる機会を増やす効果に繋がっている。



3. 実践の内容

【理科室前：

NATURE壁新聞と4年生の季節新聞】

自然散策会や星を観る会などの理科行事の紹介から動植物の様子までを載せたNATURE壁新聞。4年生がグループに分かれて年4回発行する季節新聞。どちらも理科室前に大きく掲示されている。



【2～6年生の教室掲示：今週のニュース】

新聞記事の5W1Hをおさえ、自分の考えまでを書き入れる今週のニュースのワークシート。2年生～6年生までが実施している。これにより、明らかに新聞への関心と、新聞を読む子どもの割合も上がった。各教室の後方に掲示されている。



【3～6年生の夏休みの宿題：

しずおか新聞感想文コンクールに全員参加】

新聞記事を選んで感想を作文にまとめるもので、3年生以上は全員参加とした。夏休みの宿題のため、家でじっくりと記事と向き合う時間が持てるのは良い。



【その他1：

国語「見出しクイズ」社会「本日の一面】

新聞記事の見出しを隠すだけで完成する、見出しクイズ。何問も挑戦したが、なかなか正解には至らなかった。見出しだけで読み手に多くのことを伝えられる新聞記者の皆さんの力を、子ども達は再認識していた。

教師が選ぶ、本日の一面。必ずしもトップ記事を選ぶのではない。子ども達に読んでほしい内容を大人が選ぶことで、新聞の読み方を教える。高学年の子ども達に全てを任せることも、一つの方法かもしれない。



【その他2：

6年生社会「授業のまとめを新聞作りで】

社会科のまとめの単元で新聞作りをする授業は昔からあるのだが、まとめだけでなく、作るタイミングを導入の時期であったり、展開の時期であったり、まとめの時期であったりと、色々やってみた。夏休み明けには「好きな歴史人物新聞」を、大太平洋戦争を学んだ時には「平和への祈り新聞」を、国際社会について学んだ時には「好きな国新聞」を作って、調べる力や友達に伝える力を育んできた。



【その他3：

5年生社会「静岡新聞社見学を通して】

5年生の3学期に、社会科見学として静岡新聞社を訪問している。新聞を作る工程はもちろん、

新聞作りに携わる人々の苦労や喜びなどを学べる。この見学を通して、子ども達の新聞への興味や理解は確実に高まる。NIEを進める上で、今後も欠かすことのできない見学だと考えている。



【NIE公開授業 2014 5年生社会】
 (小学校教育研究会「社会:水産業新聞とその考察」
 で実施)

各班に分かれ、自分が設定した水産業のテーマをもとに発表を行った。発表のための材料として新聞の文字の切り抜きを使った水産業新聞を準備した。新聞に慣れ親しむだけでなく、新聞から興味を持った水産業関連の記事や写真をきっかけに、社会的事象への関心を深め、自分の考えを表現することを目標に掲げた。

考えを発表し、それを聞く作業だけでなく、そこで気になった考えについて学級全体で深めていけたらもっと良かった。

【NIE校内研究 2014 1年生国語】

ハッピーニュースのワークシートを配布し、各家庭で、新聞の中から「一番幸せを感じられた記事」を選んでワークシートにまとめてくる。

ハッピーニュースの発表ではワークシートを見てはいけない。事前暗記である。記事を選んだ理由まで簡潔に述べる。感想や質問など、話し手と聞き手の間で会話を繋ぐキャッチボールをする。

1年生のうちから授業を通して「親子で新聞を楽しむ」「皆の前で自分の思いを伝える」ことが始められることを目的に授業を組んだ。

ちなみにハッピーニュースとは、日本新聞協会が毎年行っているもので、愛読者の一人である授業者が、本校の子ども達に新聞を好きになってもらいたいという願いから、授業に取り入れたという経緯がある(本校の1年生は、まずハッピーニュースを扱う)。



【NIE校内研究 2014～2016 6年生英語】

「Yomoっと静岡」にある今週の英語Newsを使用して、英字新聞の音読と読解を行った。聴き取り用のワークシートを通して、能動的に聴き取ることができた。ダウンロードの音声を活用することで、ネイティブスピードの英語を聴き取らせることができた。

単元扱いにし、集中的に取り組んだ(全10回)。この教材は、毎回新たな単語を学ぶことができ、どの子も語彙力のアップに繋がった。また、適度な文章量を読み取るので、読解力も養えた。

【NIE校内研究 2014 5年生国語】

新聞記事の書かれ方から「逆三角形の文型」を学んだ。見出しやリード文などで、結論が先に提示されるという新聞記事の特徴を理解し、多くの情報の中から、自分の学びに役立つものを効率的に選択する力(情報リテラシーの力)を養った。

出来事をまとめるだけでなく、報道に対して自分なりの考察を持つことを心がけるように指導した。記事を基にしたディベートの中で、根拠に基づいた批判的な意見を述べることでよかった。



【NIE公開授業 2015 3年生国語】

(小学校教育研究会「国語：新聞記事の読み取りと話し合い」で実施)

静岡県出身の全盲の弁護士である大胡田さんが講演した新聞記事を、5W1Hに気を付けて読み取りを行った。読み取ることで生まれた自分の考えを、全員が発表した。盲導犬の飲食店への入店を断るのか、許可するのかを、グループごとに話し合い、代表者は飲食店の店員となって考えを寸劇で演じた。

静岡出身の障がいをもつ方の記事を扱うことで、新聞への関心と同時に、障がいがあっても頑張る方への関心を高められた。心のバリアフリーについても、今後も考えていきたい。



【NIE校内研究 2015 3年生道徳】

福祉の会で、清水区在住の方（視覚障がい者）を先生として招き、講話と体験授業を行った。先生は「ボクシングで失明したが、ボクシングをうらんではいない。障がいは不幸ではない。不便なだけだ」と語ってくれた。ボクシング体験やアイマスク体験を行い、子ども達の心は激しく揺さぶられた。

「はがき新聞」作りを授業のまとめとした。はがきサイズの良さは、要約力の育成になるし、何よりその手軽さだ。完成した新聞を家族に送ったことで、良い意味で家族ぐるみでの授業理解に繋がった。



【NIE公開授業 2016 5年生国語】

(NIE実践指定校による公開授業「国語：ハッピーニュースと学級討論会」で実施)

前半は、児童6名によるハッピーニュースの発

表を行った。動物園で動物の赤ちゃんが誕生した記事や、盲導犬に関する記事など、新聞を読んで幸せな気持ちになった記事を示しながらニュースの要点や選んだ理由を説明した。

後半は、児童全員による学級討論会を行った。児童が選ぶハッピーニュースの多くが動物の話題であることを切り口に、今回は「動物園の動物（または家庭のペット）は、野生に返すべきである」と問題を提起し、賛成派5名、反対派5名、審判団6名に分かれて討論を開始した。賛成派の主な主張は「自分だったら、一生を檻に囲まれて暮らしたくない」「家族に会いたい」で、反対派の主な主張は「野良猫は飼い猫より命が短いというデータがある」「家もご飯も病院もある方が幸せ」であった。大人が感じる説得力のある主張と、子ども達が感じた説得力のある主張は必ずしも一致せず、今回の雌雄を決したのは数値より情であった（賛成派の勝ち）。

学級討論会（ディベート）の魅力は、説得力のある主張を身につけられることと共に、人前でもしっかりと自分の意見を発言する習慣が身につくことである。更に、新聞記事を基にした問題（論題）を用意することで、新聞や社会そのものへの関心を高めることに繋がっている。これからも、新聞記事への関心を大人も子どもも高め、良い論題はないかと待ち構える姿勢で臨みたい。



【NIE公開授業 2017 6年生英語】

(静岡県私学初等教育研修会「英語：Y o M o っ と静岡の英文理解と議論」で実施)

2014年度から始まり、6年生の英語担当者を中心に常に研修を深めてきた「Yomoっと静岡」にある今週の英語Newsを使用しての英字新聞の音読と読解。昨年度から本校で採用したNET(外国人英語教員)の強みを生かし、子ども達は授業を通して多様な物の見方や考え方に触れることも可能になった。

本時は、題材目標であるKnow(新聞の内容を通して視野を広げる)、Have(新聞の内容について考えをもつ)、Share(考えを英語で発表して仲間と共有する)の3点にせまれるよう、グループワークを行った。ランダムに3~4人で構成されるテーブル班で課題に臨むわけだが班の中には英語の得意な子、不得意な子がいる。互いに教え合い、励まし合い、協力し合い、課題の解決へと向かう。今週の英語Newsを通して時事問題を学び、同時に人間関係も学んでいる。



4. 実践の成果と今後の課題

①児童はNIEを通してどのように変わったか？(どのような感想を持っているか?)

◎この4年間、NIEに関する子ども達の声を拾ってきた。一部ではあるが、紹介したい。

- ・「ハッピーニュース」は楽しい。新聞を開くのが楽しい。記事を探すのが楽しい。お家の人にニュースを読んでもらうのが楽しい。

- ・「今週のニュース」のワークシートは、やるのが大変だけど、我が家では家族と新聞を広げて話し合う時間になっている。家族から、世の中のことを教えてもらったり、この記事に対して私はこう考えたよと伝えたり、まるで授業のよう。
- ・「本校の掲載記事」を貼った模造紙を見て、「あっ、私が新聞に載ってるよ。ママに教えなくちゃ」という声も。親子で新聞に触れる機会を増やす効果に繋がっている。
- ・廊下のNIEコーナー。長椅子に座って新聞を読むのは、気持ちが良い。床に寝そべて読むこともある。新聞は読書とはまた違った気楽さがある。
- ・学級討論会を重ねた。新聞記事を基にして論題を皆で考えたり、討論に勝つために家庭で新聞を読みあさったりした。新聞は便利だし、身近な存在になった。

②実践者の感想(反省点や課題となる事項)

【感想】

(以下は、2月17日に行われたNIE実践報告会で、報告を終えた後に書いたものである)

本校では2014年度から丸4年、小学校の教育目標を達成するためにはどのように新聞を使った授業を組み入れていくのが良いのか、教職員全体で取り組んできた。「新聞を用いた新たな授業の創造」を最終目標として、様々な視点から研究授業を重ね、たくさんのご意見も頂きながら、NIEにせまってきた。

実践報告会で、たくさんの先生方の前で本校のNIEへのあゆみを報告しながら、私は幸せを感じていた。時間が許すなら、1時間でも2時間でも、感想を挟まずとも実践についてだけ報告する材料を持っていたからだ。これは、私一人の力では、決して叶わないことである。進んで授業に臨んでくれた子ども達、その子ども達を快く支えてくれていた保護者の皆さん(親子で新聞を読むようにしたよという声を、この4年間で何度聞いたことか)、そして学校環境を新聞のある風景に変えたり研究授業をNIEに絞ったりなど職場全体で研究に取り組んでくれた教職員の皆の力が、たくさんの実践報告に繋がったのは紛れもない事実である。支えてくださった全ての方々に、心よりお礼を申し上げたい。感想が長くなってしまった

が次のNIE実践指定校の皆さんの参考となるように、反省点や課題を述べなくてはならない。

【反省点・課題】

- ・もっとNIEの実践報告を、保護者に随時報告できる工夫した掲示が必要ではないのか（大変お世話になっている、家族で取り組まないとNIEは成立しないので）
- ・ここまで盛り上がった本校でのNIEの火を、これからも燃やし続けられるよう、若手にそのタスキを繋いでいく必要があるのではないか。
- ・次期学習指導要領のキーワードとなっている、「新聞の活用」と「アクティブラーニング」と「道徳の教科化」の3点。新聞記事を基に考える、話し合う、ディベートするあたりに光を感じる。全教員で校内研究授業を行うなどして、学校側の財産を増やしていかななくてはならないと考える。
- ・最後に、次のNIE実践指定校の皆さん、新しいものを生み出す苦労はありましたが、その苦労以上に、皆で新しいものを作り出す喜びが勝っていました。本校にとって、NIEに費やした時間は大きな財産になりました。頑張ってください。

新聞に親しみ、活用しよう

森町立森小学校 兼子 万紀郎

1. 実践の概要

本校では、平成28年度から2年間にわたりNIEの実践指定を受け、新聞を活用した教育活動の実践に取り組んできた。

現在、小学校の時から携帯電話を所有する児童が増えている。ネットやゲーム、テレビに触れる時間は多いものの、新聞を日常的に読む児童は少ない。新聞から学べることが多いとわかっているものの、児童にとって少し距離がある。

そこで、本校では「新聞に親しみ、活用しよう」をテーマに2年間の実践を行った。まずは、新聞を身近に感じられるよう、環境の工夫から始めた。そして、1年生から6年生の発達段階に応じ、効果的に活用する方法を考え実践を行った。



〈読書の時間に、新聞に親しむ児童〉

2. 新聞の置き場所と整理方法

毎朝届く新聞は、掲示、図書室での閲覧を経て各学級に届くようになっている。

① 今日の一面

毎朝届く新聞の一面を印刷し、昇降口に「今日の一面」と称して掲示した。昇降口を通過してすぐ目が届く場所に掲示をし、複数の新聞の一面を見比べることができるようにした。靴を履き替えな

がら目に入り、気になるニュースがあると足を止める姿が見られた。



〈今日の一面コーナー〉

② 図書室での閲覧

図書室に閲覧スペースを用いて、その日の新聞各紙をおいた。毎朝図書委員会がその日の新聞を受け取りに来て図書室に置く。1年目はただ置くだけに留めたが、折りたたまれた新聞は手に取りにくい様子だった。そこで、2年目は図書委員会の児童が軽く一読して、気になるページを開いて閲覧スペースに置くようにした。なかなか座って開く児童は少なかったが、写真や見出しが目立つページを開くことで興味を引くことはできた。

③ 各学級への配付 & 活用

図書委員会がその日の新聞を図書室閲覧スペースに置く際、前日分の新聞を回収する。そして、曜日ごとに割り当てた学級に配付する。配付された新聞は学級ごとに活用する。児童が見やすいように掲示したり、新聞学習の際、購読していない児童に提供したりした。

④ 職員室側面の掲示スペース

職員室廊下の掲示スペースを確保し、気になるニュースの掲示を行った。大きくは「森小学校に

関する記事」「森町に関する記事」「井伊直虎」に関する記事の特集を行い、記事を切り抜き掲示した。気になるニュースの課題で行った児童のプリントも掲示し、身近に感じられるように工夫をした。連日の更新が難しく課題は残るが、身近なニュースがあったり、知っている友達のプリントが掲示されていたりするので、足を止め読む姿が見られた。



〈井伊直虎特集と児童のプリント〉

も、「ウサギ、ポケモン、サイエンス」など、人や動物、キャラクターの名前など、いろいろな言葉を楽しく見つけることができた。



〈新聞から片仮名を見つける様子〉

3. 実践内容

(1) 共有事項

各学級への取り組みは担任が中心となり進めた。学年を通したつながりを持つために、年度当初に発達段階に応じて目標の伝達を行った。

	目標	テーマ
低学年	慣れる	新聞って楽しい
		まずは手に取る機会を増やす 読めなくても楽しむ
中学年	親しむ	便利だな
		気になるニュースを読む 形式を学び真似る
高学年	活用する	効果的に使おう まとめよう
		知識の幅を広げるために読む 洗練された文章を読み深める 新聞の形でまとめる

(2) 各学年での実践

1年生 国語 「かたかなあつまれ」

新聞から片仮名を見つける活動をした。新聞には片仮名が多くあり、読めない字が多い1年生で

1年生 道徳 「いいねもりもりしんぶん」

ワークシートに祭りの写真とおすすめの説明欄を設け、森の祭りの良さを伝える新聞を作成した。さらに、子供たちが実際に見つけた、森町のお気に入りの場所や食べ物を紹介する「いいねもりもりしんぶん」を作成した。

2年生 親子活動& 図画工作科「おはなし大好き」

親子で新聞紙にふれあう活動を行った。パズルのように分解された新聞を復元したり、まるめた新聞紙で玉入れをしたりした。また、図画工作科では、笠地蔵の絵を描いた。新聞の色合いを地蔵に見立てて作品を作った。後述の図画工作科での中心授業も含め、新聞を全力で楽しむことができた。

2年生 課題 「見出しをつけよう」

新聞から写真を切り抜き、オリジナルの題名作りを行った。読めなくても写真から作れるため、おもしろい題名を作ろうと夢中になった。記事の内容に触れて題名を作る児童を称賛していくことで、家庭でも漢字や意味を聞きながら、内容に即した見出しを考えたり、写真のない記事でも見出し作りを行ったりする児童が増えた。

3年生 総合 「森町博士になろう」

森のお茶、森の祭りについて調べ新聞にまとめた。新聞を参考にしてレイアウトを考えた。新聞を参考にすることで題字やレイアウトが上手にで

きるようになった。

4年生 総合 「防災」

防災の大切さを伝えるために、新聞記者になりきって記事の内容集めをした。消防署見学から分かったことをまとめたり、インタビューやアンケートを取ったりした。読み手に自分の考えが伝わる新聞の作り方を学ぶことができた。新聞の割り付け方を工夫し、絵や写真を入れて読み手の興味を引く新聞作りを心がける姿が見られた。

5年生 社会 「社会を変える情報」

中日新聞社本社にて、新聞の作り方や配達の仕事など、社内を見学しながら教えて頂いた。新聞記者の方から、早く正確に情報を届ける工夫についてお話頂いた。情報源として、自分たちの生活に深く関わる新聞について、理解を深めることができた。



〈説明を真剣に聞く様子〉

6年生 朝の会のスピーチ

「ぼく、私の気になるニュースを紹介します。」と、毎朝、その日の当番が最近新聞を読んで気になったニュースを紹介する時間を設定した。記事の内容に対する自分の感想や意見も付け加えて発表した。発表を聞いた友達からも記事に対する質問や感想をもらった。子供たちが新聞を手にとって読む機会も少しずつ増え、友達を選んだ新聞記事に興味を持つ様子も見られるようになった。

6年生 課題 新聞社ワークシート

国語の語彙力、読解力を高めるために各新聞社HP上でダウンロードできるワークシートを定期的に活用した。課題でワークシートの問題を行い、

わからない言葉の意味調べを行った。また、実際に声に出して読むことで速読の練習へとつなげていった。

6年生 課題 「要約しよう」

2年生では写真から題名づくりを行ったが、6年生は気になる記事の要約を実施した。児童が実施したプリントを朝、黒板に貼りだし、「先週の1番人気記事・驚きの記事・題名づくりNo1」と紹介した。友達の記事を談笑しながら眺める中に、時事問題への関心の高まりを感じた。

(3) 中心授業実践

2年生 図画工作 「モリンピック2の1」

実践の場面	図画工作：しんぶんとなかよし
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙が形を変える感覚から、想像を膨らませ、造形的な活動を思いついたり考えたりしている。 ・オリンピック記事を集めることで、新聞を開く習慣をつける。
実践の内容	<ol style="list-style-type: none"> ① リオデジャネイロオリンピック記事の写真や記事の切り抜きを行う。 ② 班ごとにオリンピックの切り抜き新聞を作成する。 ③ 新聞紙をちぎったり丸めたり形を変える造形遊びを行う。 ④ 新聞紙でオリンピック会場を再現しようと伝え、計画をたてる。 ⑤ 会場、小物、衣装を新聞紙で再現する。 ⑥ 再現したオリンピック会場を紹介する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・終始楽しく活動する様子が伝わった。 ・大量の新聞を学年に保管することで、新聞を身近に感じる事ができた。 ・時事問題への関心の高まりが感じられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を読めないために、内容が理解できず、写真がないとオリンピックの記事なのか判断できず迷っていた。



〈モリンピックフェンシング発表〉



〈新聞から国名を探す児童〉

6年生

総合的な学習の時間 「ワールドトラベラー」

実践の場面	総合的な学習の時間 「ワールドトラベラー」 外国語活動「行ってみたい国」
目標	・日本と関わりの深い国がどこなのか調べ、整理する。 ・興味を抱いた国の文化や情報を詳しく調べ、理解を深める。
実践の内容	① 新聞紙から外国名を調べワークシートに記入する。 ② ワークシートをもとに日本と関わりの深い国について考える。 ③ 自分の興味を抱いた国について調べ学習をする。 ④ A4にまとめ外国語ルームの掲示物にする。 ⑤ 外国語の時間に、行ってみたい国としてスピーチする。
成果	・スポーツは世界中とつながっている。経済はアメリカやアジアが多いと、ページ欄に注目することで、分野によるつながりを意識できた。 ・国名が掲載される頻度から、日本と関わりの深い国についての理解を深めた。
課題	・限られた時間で見つけるので、読むより見るという印象が強かった。

4. 実践の成果と課題

〈成果〉

- 環境面の工夫から、いつでも目の届く場所であり、児童にとって新聞が身近なものになった。
- 今日の一面を掲示したり、職員室で読んだりしている時に、「今日は良い記事あった?」と、教員同士で会話することがあり、時事問題への教員の意識が高まった。
- 雨の日の昼休みに、廊下に積まれた新聞を持ってきて読んだり、造形遊びをしたりする姿に、新聞との距離が縮まったと感じた。
- 読解力や速読等国語の力に課題があったので、いろいろな文章に触れる良い機会となった。
- 中心授業のようにしっかりと練って行くと、子供たちの反応も良く、NIEの手応えや可能性を感じることができた。

〈課題〉

- 時間の確保が難しい。読書習慣が不十分なので授業での活用だけでなく、活字をじっくり読む時間を確保できればよかった。
- 決まった授業の中での活用はできたが、もっと継続的に活用できると良かった。
- 担当や教科を中心に活動したが、全校児童、全職員、保護者、すべてを巻き込んで実施するまでには至らなかった。

プラス 学校現場 + 新聞

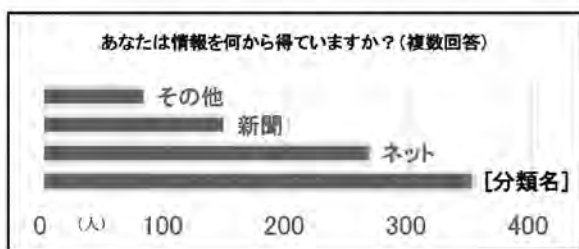
～社会の出来事をもっと身近に～

裾野市立富岡中学校 加藤 りよ



1. はじめに

本校は、静岡県東部に位置し、周囲には田んぼが広がり、毎日のように雄大な富士山を眺めながら過ごすことのできる自然豊かな環境の中にある。主要道路が多く交わり、首都圏からも近いため、日本を代表する世界的な企業が集積する場所でもある。商業施設は少なく、その分昔から続く地域の行事が多くあり、子供も大人も参加するため住民同士の結びつきも強い。一方で生徒たちの音楽プレーヤーやゲーム機、スマートフォンなどの所有率は高く、情報源はアンケートからも分かるとおり、テレビとネットが圧倒的に多い。



近年、子どもたちの「読解力」の低下や文字・活字離れが心配されるなかで、成果をあげているのが“学校現場で新聞を教材として活用すること”、つまりNIEである。日本新聞協会が実施した「NIE効果測定調査」によると、新聞閲読頻度が高いほど総合読解力の得点が高いという傾向が見られた。また、子どもが新聞を使った授業を受けていることについてどう思うかとの問いに、保護者の9割が「よいことだ」と回答するなど、

保護者もNIEに対して肯定的であることがわかる。

本校のNIEの第一目標は、「新聞を通して自分が生きている社会の動きを理解すること」である。目標達成のために、生徒が“生きた教材”である新聞を読むことで社会の出来事と自分をつなげて思考したり、物事に対する視野を広げたりするにはどんな活動が有効であるか、研究を行った。

2. 実践の概要

(1) 学校としての取組

本校では学校運営組織の中にNIE委員会として特別委員会を設置した。NIE委員長の他に各学年から一名ずつ委員が所属し、月曜日の1時間をその活動に当てている。NIE委員会では、常時活動や特別活動について話し合い、年間計画の立案、アンケートの集計や事前準備、事後研修などを行っている。月1回のペースで行っているNIE週間の記事選びも順番に担当することで、様々な視点で選ばれた記事を生徒に紹介できる。NIEの活動はどうしても担当教員一人に任せきりになってしまう場合が多いが、特別委員会を設置し、各学年必ず一名は関わっている教員がいることで、全校体制で取り組む意識は自然と高まる。また、生徒たちもNIEは本校の特色の一つであると意識できるように、学習委員会と文化委員が担当委員会となって活動している。教師も生徒もNIEを本校の学習の柱の一つとして活動している。

(2) 新聞の設置、掲示場所について

裾野市の事業として毎日全14クラスに一部ずつ学校へ届けて頂いている静岡新聞は、各教室に朝のうちに届けられ、担任の机で誰もが見られる状態になっている。記事紹介を行っているクラスでは、当番になった生徒が熟読する様子が見られた。

またNIE掲示板を全校生徒が見られるように多目的ホールに設置した。NIE掲示板には、月に一度行っているNIE週間で生徒が記入した

ワークシートの中から文化委員が厳選したものを掲示している。また、各クラスの文化委員が週替わりで選んだ『HAPPY NEWS』も、少しずつ数を増やしながら掲示した。

生徒たちが必ず通る職員室前の廊下に、毎日静岡新聞の一面を『今日の一面』として貼り出したり、本校の生徒が掲載された記事なども掲示したりすることで、生徒たちが自然と新聞を目にする機会を増やした。

3. 実践内容

新実践を行うに当たって以下の二つの仮説を立てて研究を行った。

【仮説1】 授業で新聞を積極的に活用したり、毎日の帰りの会で生徒による新聞紹介を取り入れたりするなど、新聞に触れる機会を増やすことで、生徒は社会の出来事への関心を高めるだろう。

【仮説2】 様々な新聞記事を読み、自分の考えをまとめたり、小集団で意見交換したりすることで、生徒は自分とは違った見方・考え方と出会い、物事に対する考えを深めることができるだろう。

(1) 授業公開、事前事後研修の実践

「新聞をどのように授業で活用すべきなのか分からない」という教員のために、様々な教科での授業公開を行った。あくまで新聞活用は目的ではなく手段として扱うことを共通理解した上で、教科部による事前研修、校内授業公開、職員全体での事後研修を行った。

①社会科の授業公開

一年生社会の公開授業では、「北極海航路の積極的利用」について、経済振興と環境保全の両面から考察する活動を行った。一つ目の新聞資料では、記事の一部を白抜きにし、その部分に当てはまる語句を予想するクイズ形式で生徒の興味を引く導入とした。生徒は頭をひねりながらも、前後の文章を何度も読み、様々な予想を立て積極的に相談したり発言したりしていた。二つ目、三つ目の新聞資料は、北極海について別の視点で書かれた記事で、生徒の考えを揺さぶる仕掛けになっている。北極海航路の経済的メリットについて確かな数字に裏打ちされた記事で読んだ後、別の新聞

記事に掲載された「痩せ細った北極熊」の衝撃的な姿を写真で見せることで、視覚的にも問題提起を行った。四つ目の「トランプ大統領」の記事は教師が提示し、毎日目にするニュースと、今学習していることをつなげるツールとして活用した。最終意見を記入する場面では、経済振興か環境保全か、どちらを優先すべきか、新聞から自分の考えを導き出そうとする生徒の姿が見られた。

②保健体育科の授業公開

3年生の保健の公開授業では、「喫煙と健康」について、たばこの身体への影響と健康増進法の改正についての記事を読み、様々な立場での利点をまとめ、議論する活動を行った。現在15歳である3年生は、2020年の東京オリンピックを18歳で迎える。国際的に注目を浴びるビッグイベントであるオリンピックでのたばこを巡る我が国の状況は、日本人として考えなければいけない課題である。「たばこは有害だ」の一言で片付けるのではなく、「身体にどんな影響があるのか」、「国はどんな政策を考えているのか」を知ることで、自分事として捉え、社会の一員としての自覚を持つことにつながる。本授業では、一つ目の新聞資料で「公共の場での全面禁煙を法律で定める国は50カ国」「日本の受動喫煙対策は世界最低レベル」など、世界と日本の喫煙規制への意識の差を見ることができた。二つ目の新聞資料では、一時は例外を作っていた受動喫煙の防止政策を、政府もオリンピックに向けた重要課題として考え始め、全面禁止とする健康増進改正案を打ち出した記事が載っている。しかし未だに自党内でも意見が割れ、国の進路を決める政府でさえも意見が定まらない課題であることを知る。三つ目の新聞資料は、イラストと図があり、一目で意見の違いがはっきりと見て取れる。厚生労働省とたばこ議連のそれぞれの言い分が生徒も理解しやすい資料である。こうした資料から、各立場での利点について生徒はワークシートにまとめ、互いに意見を伝え合った。「たばこは有害だ」という単純な知識から、一歩踏み込んで考えたことで、中学生の自分には関係のないこととして捉えるのではなく、オリンピックを支える国民の一人として法改正について議論することができた。

③道徳の授業公開

9月11日に掲載された「風の電話」の記事を、道徳の公開授業で教材として取り上げた。9月11

日は東日本大震災からちょうど6年半の日で、当時4歳だった少女が10歳になり、震災で亡くなった姉と「風の電話」で話をする姿が大きく写真で掲載された印象的な記事である。震災に対して他人事ではないという感覚を持つ静岡県民は復興支援や防災に対しての意識は高いが、震災後の被災者の状況を想像していくことは難しい。こうした区切りとなる日をきっかけに、改めて震災について触れていくことも重要である。実際に存在する場所で起きた災害、被害を受けた人々とその家族など、新聞が信頼性の高い情報源だからこそ、心を揺さぶる教材となる。実在する被災者たちに思いを馳せながら、『自分ならば風の電話を利用するか』という発問に対して生徒たちは小集団で互いに意見を伝え合った。授業の終わりに、亡くなる前、「自分が死んだらきっと妻が訪れるだろうから」と風の電話近くにベンチの設置を依頼した会社員に関する記事を紹介し授業を閉じた。遠い存在の“死”と記事を通して向き合うことで、今の“生”を意識する機会となった。

各授業の事後研修では、授業目標達成のために新聞をいかに有効活用できるかについて教員同士で意見交換を行った。

(2) 帰りの会での新聞記事紹介の実践

各学級に毎日届けられる新聞を活用し、その日の日直が気になった記事について紹介するコーナーを設けた。一面の話題のニュースを紹介する生徒もいれば、地方面やスポーツ面、または写真などを紹介する生徒もあり、「私も気になっていた」や「そんなニュースあった？」など反応も様々であった。紹介する生徒が新聞をじっくり読む機会になることはもちろん、紹介する人の意見を聞くことで、他の生徒もその出来事が身近になる。

(3) 新聞コンクールの実践

静岡新聞社が行っている「しずおか新聞感想文コンクール」に、表現力の向上を目的に、国語の授業を使って全校で取り組んだ。どんな記事を選んだら良いか分からないという生徒のために、誰もが新聞やテレビなどで目にする今世間で話題の記事を、教師が選んでいくつか提示した。全校生徒の作文の中で特に優れた生徒の作文を20名程度選出し、実際のコンクールに出品して、2名の

生徒が奨励賞に選ばれた。

(4) 行事の新聞づくりの実践

本校では、すべての学年で5月に宿泊を伴った行事があり、その振り返りとして各学年新聞形式にまとめている。一年時に新聞の作成の仕方についてのレクチャーを行い、基本に沿った新聞作りを学ぶ。できあがった新聞は、基本は同じであっても新聞名や見出し、書体などで各自の工夫が見て取れ、掲示された新聞を生徒は興味津々で見ていた。

(5) NIE週間の実践

月の最終週をNIE週間として設定し、朝の時間を利用して、毎月新聞記事の一つ取り上げ、火曜日に記事を読んで自分の意見を記入し、木曜日に小集団で意見交換する取組を行った。生徒が興味を持ちそうな記事から教員が生徒に考えさせたい事柄など、なるべく色々な種類の記事を提示するよう意識してNIE担当教員4名が交代で選んだ。自分の意見を立てやすいように、記事に沿った発問を記入しておいたり、「賛成・反対」で記入するよう指示したり、ワークシート形式で行った。本校の学習の柱である『学びの共同体』という四人組での学習形態を利用し、話し合い形式を取り入れて新聞について考える時間とした。また、記入を終えたワークシートはNIEファイルというプラスチックファイルに綴じ、後から振り返りができるようにした。

(6) NIE集会の実践

NIE集会と名付けて新聞をテーマとした生徒集会を行った。生徒による新聞の基礎知識についての講座と全校討論で構成されており、前年度の討論テーマは「18歳選挙権引き下げについて」、



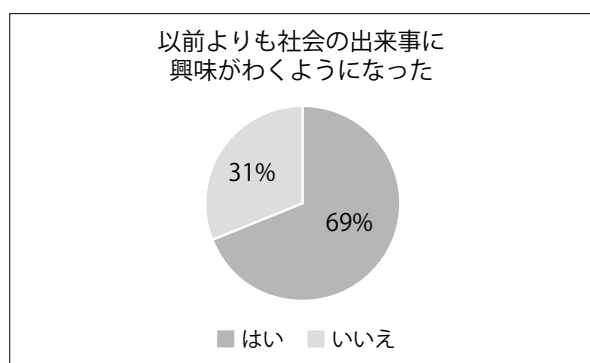
今年度は「部活動週4日制について」というテーマで全校討論を行った。事前に普段のNIE週間と同じように個人で意見を記入し、小集団で意見交換を行った上で、本番の全校討論に臨む。賛成、反対、その他の意見を持った代表生徒の意見を聞いた後、自由に自分たちの意見を発言し合った。NIE集会の準備や運営は学習委員会と文化委員会の生徒が中心になって行い、「学習」に重点を置いた第3ステージにふさわしい場となった。

4. 実践の成果

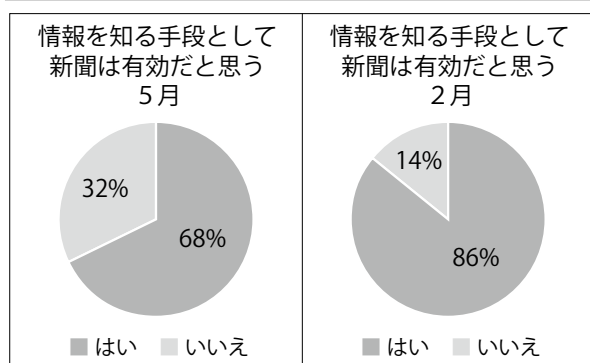
【仮説1】

生徒は社会の出来事への関心を高めたか。

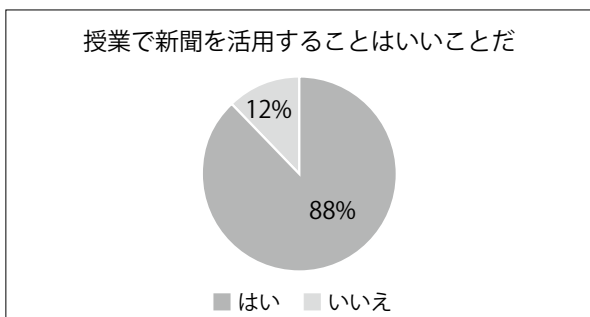
《年度始めと年度末の生徒アンケートによる結果》



約7割の生徒がNIEによって興味を持つようになった。



5月のアンケートよりも18ポイント増えた。



約9割の生徒が新聞活用の授業に前向きな考え。

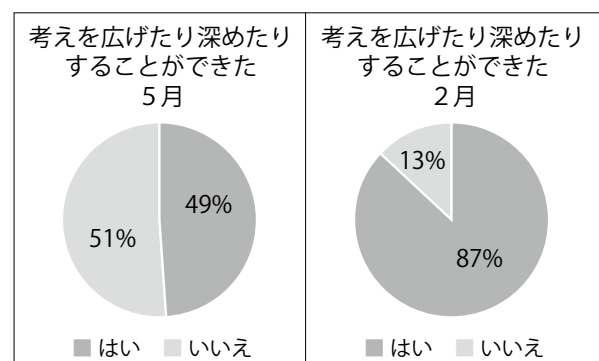
2年間の取組により、全員とまではまだいれないが、多くの生徒がNIEに肯定的である。

社会科の授業では、提示された資料に熱心にマーカーで線を引く姿があり、どの部分が重要であるか、答えを導き出すことにつながっているかを考えることで、情報を取捨選択する力が身につくと感じた。保健の授業では、一つの事柄に対する様々な記事を読み比べすることで、同じ出来事を多角的に見る力を養えることがわかった。道徳の授業では、教師がハッとするような生徒の考えに出会うこともでき、普段は気づくことができなかった生徒の良さも見ることができた。生徒たちの心を揺さぶる教材は、時に教員が自らの手で新聞などから探し出し、「この話を生徒に聴かせたい」という思いを持って授業作りすることも大切であると感じた。

帰りの会等でのNIEスピーチでは、新聞をいかに無理なく自然に学校現場で活用できるか、ということのヒントが見つかったように思う。学校現場で現在行っている教育活動は、どれも欠かすことのできない大切なものであり、さらに新しいことを取り入れていくには生徒も教師もあまりに時間がない。NIEスピーチはほんの2分程度あればできることで、雑談混じりで和やかなムードで取り組めるNIEである。特別なことではないからこそ、効果があると感じた。

【仮説2】

物事に対する考えを深めることができたか。



5月のアンケートよりも38ポイント増えた。

NIE週間では、新聞記事の選定や生徒への提示の仕方を模索しながら進めてきたが、富岡中型のNIEが定まりつつある。始めは多くの文字が載ったプリントを見て辟易している様子だった生

徒も、教師がただ読むのではなく、生徒に分かりやすい言葉で解説しながら興味を持たせたことで、自由に発言する姿があった。成人式の記事の紹介の際は、教員の成人式の思い出や、教え子の成人式の思い出など交えながら、「成人する」とはどういうことか、20歳から引き下げることはどうなのか、自分にとっての答えを模索する機会となった。また、そうして考え出した自分の意見を、本校の「学びの共同体」と合わせることでさらに広げられ、深まりにつながったことがアンケートから読み取れる。

《『新聞で身につく力』 生徒アンケートより》

- ・ 読解力
- ・ 漢字に強くなる
- ・ 世の中のことを知ることができる
- ・ 難しい言葉も理解できるようになる
- ・ 意味を調べたりして内容が分かるようになる
- ・ 地域の人のがわかるようになる
- ・ 世の中のことについて深く考えるようになる

5. 今後の課題

○授業における課題

- ・ 新聞記事をそのまま資料として掲載すると膨大な文字数になり、読解力の低い生徒は全く読み取ることができない。提示の仕方に工夫が必要である。
- ・ 教師が欲している内容の記事がすぐに見つけれない。毎日じっくりと新聞に目を通す時間がないため、気軽に検索できるネットを利用してしまう場合も多い。
- ・ 新聞は「生きた教材」であるからこそ、時期を逃すと新鮮みがなくなり、なかなか使えずにいる教員も多い。

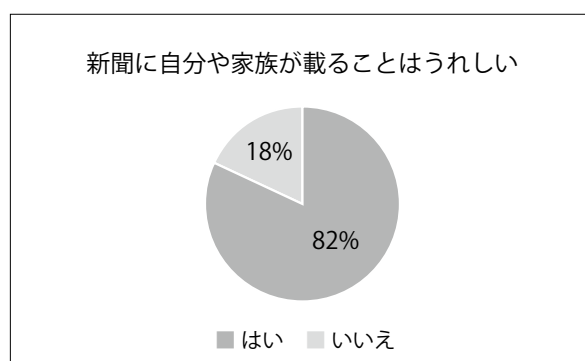
○NIE週間

- ・ 教師が選ぶ記事を紹介してきたため、生徒の「読まされている感」が否めない。来年度は学習委員会などに記事選びを依頼し、生徒による取組へと移行させていきたい。
- ・ 生徒が取り組んだワークシートをクラスで一枚だけ文化委員が選んで掲示していたため、今後はNIEファイルを廃止し、廊下掲示で全員が見られるようにしていく。

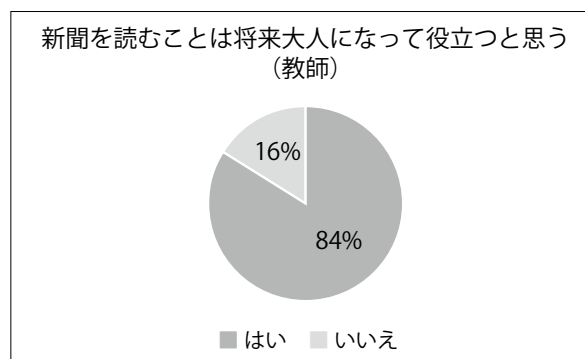
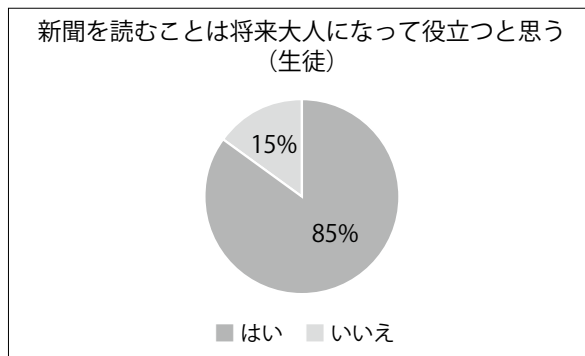
6. おわりに

授業での取組による効果は大きく、同じような内容のことが教科書や資料集に掲載されているにもかかわらず、新聞という信頼性の高い紙媒体で提示されることによって、生徒の意欲の高まりを感じた。生徒も教師も学校で習っている勉強と、世の中を切り離して考えてしまいがちであるが、新聞をその間に置くことで、つなぐ役割を果たしているように感じた。

学校現場に新聞をプラスすることで、「なぜ学校で勉強するのか」を、生徒たちが理解する手助けになっていくのではないかと思う。



新聞は生徒たちにとっても特別なものである。



教師も生徒もこう感じている

「新聞は読んだ方がいい。」

NIEって何？

～まずは新聞を話題にすることから～

浜松市立可美中学校 村松 聡一郎

1. はじめに

本校は、平成28年度より2年間のNIE実践指定校となったが、正直なところ、「NIEって何？」がスタートであった。そこで、まずは新聞を話題にすることから新聞を手にとることへ、そして、新聞を活用することにつなげていきたいと考えた。

実践を始めるにあたり、何をテーマに取り組んでいこうかと思い悩んだ。そんな折、選挙権が18歳に引き下げられて初の参議院議員選挙が行われることとなった。そこで、このNIE活動を、参院選に向けて関心を高め、選挙や政治の仕組みについて理解を深める社会科公民的分野の学習として、絶好の機会ととらえた。

2. NIE全国大会に参加して

本校のNIE活動の方向性を模索するために大分大会に参加したが、「NIEの活動には達成すべき目標はない」という示唆があった。そこで、大会で披露された優れた実践を参考に、今できる活動をし、生徒の成長につなげたいという思いを強くすることができた。また、社会科教員としては、生徒に主権者として社会とのかかわりの中で自分としての意見をもたせ、自分の態度を表明させることが重要であることを再認識できた。

その一方で、NIE活動は効果的な学習活動であるが、本校では、効果を高めるために「日常化」をするには様々な課題が山積していることが明確になった。さらに、NIE活動の効果をより高めるためには、本校区の小中学校でNIE活動のつながりをつくり、NIE活動の教育効果を共通理解した上で実践していければと考えた。

名古屋大会では、座談会を拝聴し、NIE活動の教育的効果について改めて理解することができた。また、NIE活動の先進校の実践発表を聞き、新聞を活用した、主体的・対話的に学ぶ学習の在

り方や、主権者として必要な力の育成方法を学ぶことができた。

NIE全国大会への参加を通して学んだことを、その後の実践に生かせるよう心掛けた。

3. 新聞の置き場所と整理の方法

NIE活動を本校内に定着させるため、まずは校務分掌にNIE担当を明記した。そして、生徒によるNIE実行委員会を設置し、新聞の購読を通し、選挙や政治の仕組みについて関心を高め、理解を深めることを目的に活動を開始した。NIE実行委員は3年生より希望者を募り、他の役職との兼任を可とした。

新聞の置き場所は、次の写真のようにNIEコーナーを設置して、長机とベンチを用意し、本校区で購読可能な7紙の新聞（朝日、毎日、読売、日本経済、産経、静岡、中日）の朝夕刊を日替わりで閲覧できるようにした。管理はNIE実行委員会で行い、万が一いたずら等があった場合には、直ちに撤去することとした。



管理方法は、NIE実行委員会内で当番制とし、放課後に展示する新聞をNIE担当教員から受け取る、展示してある新聞を回収する、新聞社ごとに新聞を展示する、回収した新聞を袋に入れてNIE担当教員に届ける、次の朝に次の当番に連絡することとした。NIEコーナーを周知するためには、次のように校内放送を活用した。

今日からNIEコーナーが設置されたことに気が付きましたか。実は、わが可美中学校は浜松市で唯一のNIE実践指定校に指定されています。NIEとはNewspaper in Educationの略称で、「教育に新聞を」という意味があります。そこで、校内にNIEコーナーを設置し、7社の朝刊と夕刊を日替わりで見られるようにしました。7社で同じ日の記事を読み比べてみるのもおもしろいと思いますよ。ぜひ、マナーよく、新聞に親しんでみてください。

新聞の整理の方法は、次の写真のようにNIE実行委員が新聞から選挙や政治や憲法改正に関する記事を切り抜き、スクラップブックにファイルしていった。NIE実行委員会の活動は毎週月曜日（部活動がない日）または火曜日（生徒活動優先日）の放課後を基本として活動した。切り抜きの際に記録した内容は、日付、新聞紙名、朝夕刊の別、面数（○月○日○曜日、○新聞、○刊、○面中○面）とした。



4. 実践内容

(1) 1年生の総合的な学習の時間

「自分を知り、高める」というテーマのもと、様々な取り組みを行った。まとめの活動として、新聞形式のレポートを作成し、発表をして活動を終えた。新聞形式のレポートを作成するために新聞記者を招き、次の写真のように、新聞についての説明や、書き方について教えてもらうために新聞を活用した。

新聞記者から、新聞記事の工夫について以下のような説明を受けた。

- ・文章は、大事な部分から書いていく「逆三角形」が特徴である。最初の段落が、その文章の中で最も伝えたい部分となっていて、その後、細かな内容を付け足していく。文章の量が多く、スペースに入りきらない場合は、後ろの内容からカットして文章の量を減らしていく。その際に、後ろを切っても記事の内容が伝わるようにする。
- ・見出しは、伝えたいことを簡潔にまとめ、読む人の興味を引き付ける言葉にする。最初の段落でまとめた内容から、見出しの言葉を考えていく。言葉をそのまま取ってくるよりも、同じ意味で、よりまとめた表現に変えるとよい。大見出しだけでなく、小見出しもつけると、何が書かれているのかよりわかりやすい。
- ・レイアウトは、目を引くデザインにすることが大切である。紙面の中で、「頭、肩、腹」の位置を意識して配置していく。写真やイラストできれいに飾ったり、表やグラフなどを用いて、資料を見やすくまとめたりすると、めりはりが出て、読みたくなる新聞になる。



新聞形式のレポートの作成では、新聞記者から学んだ工夫を意識しながら、「自分について」のレポートを作成した。枠の形や挿絵や写真などレイアウトの工夫をしたり、内容を吟味し見出しや文章の書き方を意識したりしながら、次の写真のように、それぞれの生徒が思い思いのレポートを仕上げる事ができた。

最後に、作成したレポートを使って「自分について」の発表を行った。それぞれの生徒が自分の言葉で性格や将来の夢、働く意義についての考えなどを発表することができた。

成果として、新聞記者から新聞の構成の仕組みや書き方を教えてもらうことで、レポートを作成

する際に、レイアウトや構成をスムーズに考えることができた。また、見出しや文章にも工夫があることを知ることで、新聞への興味・関心がより高まった。



(2) 3年生の社会科

単元名を「新聞を活用しよう (NIE)」として実践した。

単元の指導計画は、次の通りである。

単元の展開	時間
○新聞活用の仕方を学ぶ。	1
○新聞記事をスクラップする。	2

単元の導入部では、新聞活用の仕方を学ぶ活動を設定した。新聞の特色、種類、紙面構成を扱うとともに、新聞記事を理解するためには「5W1H」の視点が必要であることや、できごとを取り上げるかどうかの選択は各新聞社の判断で行われているため、記事を比較して活用できるというメディアリテラシーが必要であることをつかませるため、次の写真のように18歳選挙権施行日の朝刊を活用した。18歳選挙権施行の記事を、右の新聞は頭部に、中の新聞は肩部に、左の新聞は腹部に配置しており、さらに、1面では取り上げていない新聞もあり、生徒が比較しやすい紙面であった。



単元の展開部の目標は、「政治」をテーマに新聞記事を切り抜いてスクラップし、自分の思いや考えをワークシートにまとめることができることとした。

単元の展開部の学習過程は、次の通りである。

生徒の学習活動	・支援や留意点 ◎評価
○新聞スクラップの作業を見通す。	・新聞スクラップの完成作品を提示する。
新聞スクラップをしよう。	
○新聞スクラップの方法を理解する。	・新聞を購入していない家庭もあるので、予め用意しておいた新聞を配布する。
○新聞記事を読み、自分の思いや考えをワークシートにまとめる。	・記事を読み取れていない生徒には、5W1Hに着目するよう助言する。
○新聞スクラップの意義を理解する。	◎新聞記事を切り抜いてスクラップし、自分の思いや考えをワークシートにまとめることができたか。
○新聞スクラップの意義を理解する。	・聞き手に伝わりやすいように発表させる。
	・新聞スクラップで、まとめる力や情報リテラシーが付くことに気付かせる。



継続して新聞スクラップを行うと以下の効果が期待できる。

- ・新聞スクラップを継続すると、自分から新聞を読む習慣が付く。
- ・新聞記事を読んで感想を書くと、記事の内容を自分自身と結び付けて自分なりにまとめていく力が付く。

・情報リテラシーが付き、多くの情報の中から必要なものを選び取ることができる。

本実践は、生徒が生涯にわたり、適正な情報を入手していくための契機としたいと考えた。次の写真のように、新聞スクラップの回数を重ねると記述内容が感想のみから意見文に高まった。



(3) 3年生社会科

「今日の1面は何だろう?」と題して、毎週金曜日の授業開始から5分程度を使い、7紙の新聞の朝刊のトップ記事を取り扱うようにした。金曜日の朝になると教室でトップ記事について話題になることが増えていった。

(4) 技術・家庭科

教材に関連付けて、次の写真のように「技術の進歩と課題」をテーマとした新聞記事を、特別教室の廊下に掲示した。足を止めて掲示を見て、話題にしている生徒の姿が見られるようになった。



5 成果と課題

「NIEって何?」からスタートした本校の実践であった。これまでの優れた実践を参考に、今できる活動をし、生徒の成長につなげたいという思いは、以下のような成果を得るとともに、多くの課題を残す結果となった。

- ・今回の実践により、校内におけるNIEの認知度は上がり、生徒が新聞やニュースを話題にすることについては確実に増やすことができた。
- ・実践校に指定されたことによって教員の意識が高まった。1年生では、情報リテラシーを高めるため新聞社による記事の取り上げ方の違いについて授業実践が行われた。
- ・次の写真のように配達された7紙を閲覧できるコーナーを校内に設置したことにより、昼休み等に新聞に目を通している生徒を見かけるようになった。しかし、新聞の配達に4か月分を終了してしまうと継続的な活動にはできなかった。



- ・中学校では、部活動や行事との兼ね合いがあり、全校体制で取り組みにくいのが現状である。本校では、NIE実行委員会という名称で特別委員会を立ち上げ、委員を3年生から募集した。平成28年度には、参院選と選挙権を、平成29年度には憲法改正と衆院選を、それぞれテーマに新聞スクラップを始めたが、2学期になると行事の準備のためにNIE実行委員会の活動時間が確保できなくなり、スクラップした記事を整理して分析するところまで予定をしていたが、次の写真のように感想を書くことすら実行することができなかった。



- ・ NIE実践指定校担当アドバイザー制度という貴重な機会を十分に活用することができなかった。
- ・ 校区の小中学校でNIEのつながりをつくり、NIEの教育効果を共通理解した上で実践できると効果はより高まるのだが、連携は困難であった。

時間の確保が難しく、十分な実践ができていないのが現状であった。しかし、始めたばかりのころは先が見えなかったが、この活動を通して、生徒に気付かせたいことがあった。それは、同じ事象でも様々な見方ができるということである。そして、多面的な見方をすると視野が広がったり、理解が深まったりするのである。さらに、様々な事象の見方には、それぞれの良さがあることに気づき、自分と異なる意見も尊重できるようになっていくことを期待している。

静岡県N I E 推進協議会 実践指定校一覧

- 2000 年度 熱海高、磐田・城山中、静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小
- 2001 年度 静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小、長泉高、小山・北郷中、浅羽中
- 2002 年度 長泉高、小山・北郷中、浅羽中、静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小
- 2003 年度 静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小、天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中
- 2004 年度 天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中、沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小
- 2005 年度 沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小、湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小
- 2006 年度 湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小、清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小
- 2007 年度 清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小
- 2008 年度 東海大付属翔洋高、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小
- 2009 年度 浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小
- 2010 年度 御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小
- 2011 年度 浜松江之島高、浜松学芸中・高、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、磐田・神明中
- 2012 年度 常葉学園中・高、島田・金谷中、磐田・神明中、静岡・東源台小、浜松・有玉小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小

- 2013年度 富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小、金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、島田高、常葉学園中・高、島田・金谷中、静岡・東源台小、浜松・有玉小
- 2014年度 金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、浜松・有玉小
- 2015年度 裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、東海大付属小、金谷高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中
- 2016年度 駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、富士・田子浦小、東海大静岡翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小
- 2017年度 東海大付属翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小、遠江総合高、静岡・観山中、本川根中、富士宮・西富士中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校

静岡県N I E推進協議会

〒422-8033

静岡市駿河区登呂3丁目1番1号

(静岡新聞社内)

TEL 054-284-9152

FAX 054-284-9362

